

## 秘密の世界観：吉野の密教の教え

1300年の歴史の中で、吉野は独特の融合された宗教文化を発展させてきました。神道、自然崇拜に焦点を合わせた固有の信仰、およびもともと朝鮮と中国を經由して日本に導入された外国の宗教である仏教の融合が特徴です。後者の信仰は、吉野の特別な特徴を引き継いでいます。訪問者は、この形式の密教を学び、体験することができます。

吉野の壮大な金峯山寺で修験道の精神的な伝統について学んだとき、私は密教の理解を深めたいと思っていました。それは驚いたことに、大日寺で見つけられました。吉野の中千本地区にあるこのコンパクトな聖域は、日本で最も尊敬される宗教的人物の1人である空海（弘法大師としても知られる 774-835）によって設立された真言密教の寺院です。空海はまた、高野山を開いたことでも知られています。真言宗の高野山は、吉野とのつながりもあったと考えられています。一部の学者は、彼が青年期の一部を吉野で過ごし、大日寺の先駆者の一人を訪問したことさえあると推測しています。今日彼の像は大日寺に立っており、毎年吉野と高野山の間で55キロのコースランニングイベント「弘法大師の道トレイルランニング」が開催されています。

大日寺は吉野で最も古い仏教寺院であると考えられています。現在の建造物は、（1603～1867）に火事で失われた前の日雄寺という場所に建設されたと言われています。独特の仏教様式の屋根は別として、寺院は仏教の最高の彫像で際立っています。重要文化財である五つの仏像が祀られています。蓮の花の台座に座り、蓮の葉の形をした複雑に刻まれた光背に囲まれたその表情は、時代を超えた静寂を放ちます。

学者たちは、これらの像は藤原時代（897～1185）に、おそらく慶派の彫刻家によって作られ、京都の寺院に最初に祀られたと考えられています。それらは、日本の主流の思想で難解な仏教が受け入れられていた時代を表しています。天台宗を創立した空海と最澄（767-822）は、中国で学び、日本の宮廷に影響を与え、日本の仏教を深めました。

大日寺の仏像は、五智如来として知られています。大日寺の名前は、日本における密教の主要な仏である大日如来に由来しています。大日如来は中心にあるだけでなく、最も大きく、背の高い王冠を身に着けているため、見つけやすいです。大日如来の西側に位置するのは阿弥陀如来、南側には未来の仏である弥勒如来、北側には釈迦如来、そして東側には、薬と癒しの仏である薬師如来がおります。

これらの彫像の配置は重要です。それらは、1017年頃に藤原道長（966-1028）によって建てられ1053年に火事で失われた京都の法勝寺の仏像の配置に基づいていると考えられています。胎蔵界の曼荼羅、金剛界の曼荼羅は、真言宗の東と西の壁にそれぞれ掛けられ、大日如来の初期の発展と最終的な深化を象徴しています。

大日寺は訪れる価値があります。吉野の片隅に隠れているこの謙虚な寺院は、日本における宗教的信仰の最大の発展の縮図です。